

三
東の白粉梅紙

3244
3
13



特
八十三
3244
3

浅间嶽面影草紙三之卷

編者 柳亭種彦



出 志貝寄居虫より花巻不身とらね

志貝の又悲とありの古語ふひれり。志貝寄居虫の姉妹を憂ひの憂
ひ波を歎きのうへに歎き波を憂ひ志貝を康暦二年夏の頃より。かす
むれ起りし心ふまきせしと食一切をまされも。寄居虫が歎きおわ
く。枕辺にたゞれど。看病つとる中あり。神仏孤心入心。若姉が死
をへる常業なる。まを命にかつふ。是非下らび本服をとりあふと祈
り。其赤心や通し。九月末の頃より。病ひおさる。ねと。たゞく
全快つとる。去り。次五賊のうへに残せり。雑器をとり悉く薬の
料不賣代り。まの。貯つた入る。大陽よりせり氷の。木枯る。

吹く。且小もろもろ。やれ。給一重。あま。息。以。追。ひ。榮。成。う。細。さ。煙。の。代。と。ま。じ。雪。
や。を。足。め。前。棘。よ。か。ち。を。土。ふ。余。れ。一。箇。の。ど。く。盆。ふ。顔。紙。を。じ。水。油。に。見。
く。く。く。と。し。て。い。と。め。で。く。以。黒。髪。を。枯。野。乃。薄。ふ。異。なり。と。これ。と。姉。妹。が。天。性。
の。艶。さ。さ。さ。煙。中。の。玉。お。り。比。を。へ。く。清。き。ゆ。め。の。や。あ。ら。な。せ。と。顔。が。ち。の。と。え。
り。或。時。々。寄。居。出。忘。見。を。病。の。急。り。し。間。紙。く。ぬ。ひ。往。来。の。人。の。袖。に。を。り。
一。錢。二。錢。成。を。ひ。く。姉。が。心。に。か。う。ぶ。ぎ。食。お。成。し。の。へ。心。つ。し。ひ。の。母。れ。う。こ。さ。
し。先。小。大。人。の。著。し。の。入。れ。物。が。う。み。ゆ。り。と。く。祥。ゆ。り。記。さ。と。是。ふ。ひ。に。え。
奈。古。子。々。討。東。城。わ。し。と。つ。と。と。つ。と。期。来。り。ぬ。と。大。ふ。赤。い。忘。見。ふ。兼。成。あ。え。
一。医。師。紙。蜜。ふ。ぬ。し。ひ。く。ふ。彼。医。師。ぬ。金。小。服。を。患。者。に。と。し。と。一。日。忘。見。
ふ。や。む。ひ。紙。筋。ひ。寄。居。出。成。蜜。し。す。ひ。れ。さ。く。言。々。と。姉。上。の。病。や。う。や。く。快。き。
ぬ。よ。は。り。ひ。け。な。多。年。の。辛。苦。五。臟。を。損。ひ。気。し。う。く。獲。せ。り。や。む。ひ。紙。筋。ひ。唯。あ。る。

へ。運。ぶ。の。う。も。ろ。も。ろ。を。急。に。全。快。さ。う。め。く。や。り。人。參。犀。角。と。ん。く。高。金。の。薬。
し。ら。ひ。り。ぶ。急。度。二。十。日。の。う。も。ろ。も。ろ。を。心。清。く。さ。く。や。れ。へ。と。語。り。ち。の。寄。居。出。を。
心。中。と。か。う。と。ぬ。ひ。奈。古。子。ふ。ま。つ。ぐ。り。物。語。々。と。と。奈。古。子。々。討。東。城。を。
ぬ。と。心。よ。赤。い。を。心。や。と。ま。ま。夏。へ。は。頂。都。方。の。花。街。に。柏。女。の。心。入。り。と。男。と。
これ。不。斗。相。識。し。う。ぬ。あ。り。彼。花。街。の。弟。上。り。其。金。紙。め。く。薬。の。料。々。と。ひ。
と。紙。中。の。姉。が。本。服。を。か。ひ。め。べ。う。と。と。さ。く。つ。い。少。れ。時。う。東。回。側。紙。放。れ。
や。と。と。姉。々。妹。成。め。ら。さ。と。妹。々。姉。紙。敬。ひ。林。柱。と。も。の。し。の。紙。其。方。身。
の。代。と。や。う。と。何。れ。と。姉。々。菜。紙。飲。へ。と。と。あ。ら。内。身。と。蜜。ふ。か。ら。う。
の。と。忘。見。あ。ら。つ。の。り。じ。ゆ。ふ。ら。と。人。に。信。し。く。飯。成。く。ひ。か。ら。う。と。く。り。
夫。人。り。と。金。ふ。つ。年。々。世。の。し。ひ。や。く。存。甲。斐。う。と。男。や。り。と。水。着。が。夫。ひ。
ゆ。ふ。所。の。向。け。し。と。只。音。敷。く。声。ま。り。り。く。せ。と。寄。居。出。も。の。紙。様。が。

悲しく顔も入りかきさけしがやあうく言らるる。姉上の病を本服さへ
なすも直りしほど。その妻も望みおれ所なくうがう。妾花巻と申入るや
うい。者も悔も者あふくも。快くうらまの姉さるの山形一丁目又その
よる。碓氷金ふゆふも。なまけ上の赤ひやあふくもと言はるる。奈古平所
と申す。その心やう心やうし。山形於女と入る。金所も。彼四戸
の男あひ。其後身代のうら半金成りうけ。姉の大服うき。心静し
者病うと入。人お鬼ん。なまけの成。山形が赤心のうら。碓氷五十日
うら。いと申。得させぬりのやあふく。これよく計へて。速く寄居虫
と申す。彼四戸あひ。金成借得。寄居虫。よこし。急を急
医師あつて。志見が兼調合。元来一條。奈古平。医師と計
一。後計。漁高金のうら。寄居虫。丹心。神仏あつて。やと

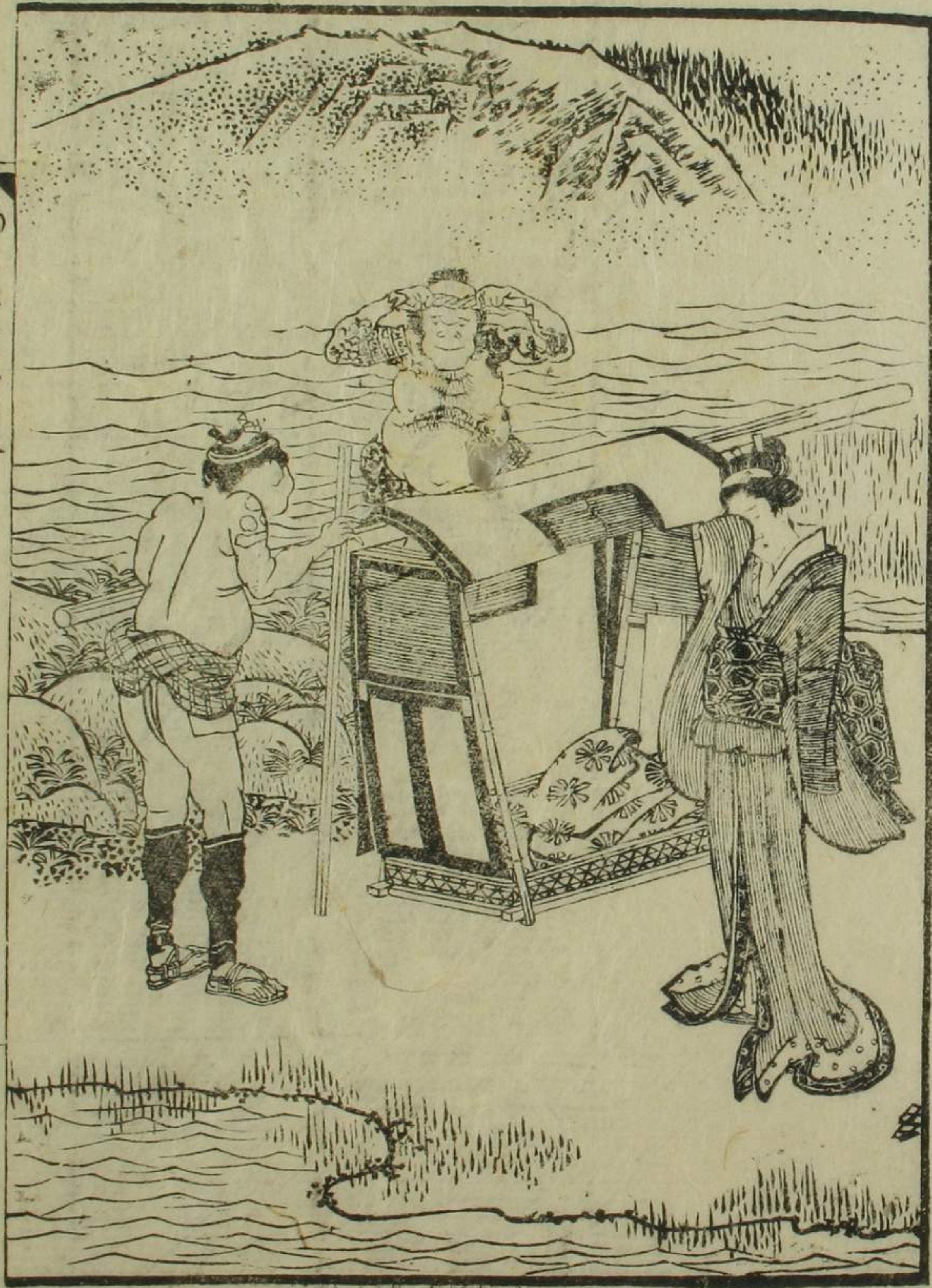
いり。幾日ものうら。志見が病全。愈常のさ。ひさか。寄居虫
うら。赤ひのうら。又姉も別。哀の悲しく。人あふ。袖は涙のあふ。人
ぬ。志見が病本服。寄居虫。買ひ得。男。志見。結
ひさ。者。言ひあ。残金。寄居虫。行人と来り
け。か。哀。寄居虫。の。や。悲しく。
奈古平。外。密。先。病。髪。妹
拵。姿。姉。服。今。妹
顔。殊。年。十六。姉。定。金五十
両。二十。奈古平。皆。思。案。大。

一 声呵々と口をひひかきて、口はふたが、胸中妙計あり。明日午時よ
 来りて、首尾よく忘見は日ごとくべし。彼男は帰らざる。寄居虫を令書
 け家の余波りりと夫とわたり、只浮世のわづらふよを人婦へ、夜と亦
 眠るひや。悲歎はかくも胸のうち。若しよま言はれども、むねのうら
 夜もあけぬと、寄居虫をわづらふくわづらふく。若しよま言はれども、むねのうら
 んと忘見が病中願ちあり。此地の生土神よまぶくれを、奈古平
 らりしと忘見よひうひあふる病のさらふやせんと、你ら
 つまねとど。ははははとわく、恨むるも必定せりと。是非及ばざる言は
 一條のものがたりありと言はせむ。忘見も、なまじりごとく、奈古平は
 のつよよかり。断宣ふる心かろふを侍り、何等由縁やせむと、膝は
 ともぬと、奈古平眼とまがく、夫人の、これとて、いせし、涙む

せく言ひかゝる。其仔細と、日頃中々、寄居虫を、今日より、此家
 あつと。遠き都へ赴く。サ、忘見大おどろけ。何と、
 そ妹を、妻とひそかに。遠き都へ旅と。や、の、実と、わらわし。
 早く、其由縁、わらわし。狂気、奈古平、取と、空涙、
 手拭、あつと。ひ、病、心、常、
 移、本服、ら、じ、と、医師、言、力、寄居虫、
 女、飲、ら、彼、の、
 高金の、と、詭、忘見、
 唯、位、顔、涙、周、
 女、才、得、薬、本、
 礼、言、つ、さ、其、一、
 此、姉、

てつササぬぞ。碇命は人をとりとも。憂も辛苦もとみせ。妹は花の
そびとにし。かみく。信はよ。居るもきり。慈悲は情。奈古平の。妹は花
蒼ふやうね思案とくく。あくく。くと。はまどふ。奈古平。計案。り。ぬと
し。赤ひ。寄居虫が身代。を。や。借交。く。り。の。料。失。じ。ぬ。は。彼。は
か。つ。く。花。蒼。に。あ。れ。ゆ。り。別。々。寄居虫。花。女。を。さ。ぬ。良。討。は。あ。く
し。く。ふ。や。ふ。敷。さ。の。う。ち。あ。も。忘。貝。々。赤。ひ。ひ。妻。死。を。さ。ぬ。命。は。助。れ
べ。花。女。と。な。れ。も。更。々。入。瓶。恨。ひ。づ。さ。き。返。し。け。上。の。情。み。ぬ。以。討。ひ。く。び。人
と。う。ち。し。も。國。戸。の。男。竹。崎。な。つ。せ。く。未。く。く。た。奈古平。彼。男。の。袖。は。ひ。く
又。垣。の。外。面。に。あ。ら。う。出。昨。日。契。約。す。つ。た。り。師。父。に。し。て。し。べ。さ。ふ。や。ん。金
どの。へ。あ。へ。と。し。ひ。り。と。し。ぬ。彼。男。も。赤。ひ。後。金。の。う。へ。又。二。十。兩。に。し。く。奈古
平。々。半。回。に。笑。ひ。半。回。に。憂。ひ。忘。貝。が。側。未。く。さ。し。は。又。詰。り。くる。と。其。居

虫とひひる男か。則は人々愈寄居虫か。ハハハ。花蒼よ。あれやん。や。と。さ。ら。く。一
を。戻。り。し。ら。く。蒼。ふ。は。ま。さ。少。時。の。う。へ。今。も。妻。が。い。へ。れ。ぬ。身。の。代。の。命。を。
ま。さ。ら。く。の。料。と。し。つ。れ。ぬ。と。覺。悟。な。し。と。寄居虫。が。飯。り。飯。や。う。い。ひ
残。も。変。ひ。さ。り。ぬ。の。止。ぬ。明。日。の。花。蒼。に。赴。く。べ。し。今。日。一。日。を。暇。さ。ひ。て。多。か
う。ら。位。は。奈古平。可。く。と。打。て。天。ひ。由。身。い。く。も。さ。り。き。更。返。ゆ。り。の。亦。寄居虫
か。か。つ。ら。あ。げ。や。ら。ぬ。身。は。花。蒼。に。あ。れ。べ。さ。ぬ。や。さ。し。免。り。覺。悟。と。彼。が
行。く。必。定。さ。る。と。それ。は。赤。ひ。が。志。及。古。ま。な。れ。理。ゆ。も。や。百。日。百。夜。暇。を
り。つ。る。式。別。を。あ。ら。し。悲。しく。や。り。ぬ。彼。が。戻。り。ぬ。あ。き。を。幸。ひ。し。と。し。は。赤。心
さ。ら。く。く。く。彼。は。傳。入。と。位。は。さ。ら。忘。貝。ひ。く。さ。さ。く。無。理。は。竹。崎。の。押。さ。る。が
尺。内。呢。一。く。奈古平。を。袖。は。ひ。く。寄居虫。が。朝。の。ゆ。め。ぐ。は。出。せ。や。り。あ。り。市
さ。ら。く。物。を。さ。し。く。さ。か。し。く。め。が。や。さ。ら。く。も。今。し。前。へ。出。来。人。味。さ。さ。く



忘れど。肥立もあやうしうとてや。飲らるべのふらう。船の奥もあふありと。
 りふあつと信にこころをへくもらじ。いせの別とら夏を。神さうねり
 の勢も。斯くも夏とあやうく。顔もかえり。脊さりの姉より
 大さなほど。あぶらさ性あり。以具ぬきさく。癖やれ。目覚えぬ
 づひさかり。風ひじくも。今宵も。石弄ら。歌あつ。相手
 づらう。さや寂しくも。あつ。花茎も。知。人ぬり。告
 ちん。必だ逢せ。連く。寵愛の猫が首さる。針箱の抽ま。昨夜縫
 い。さ。し。忘。れ。や。り。の。し。と。い。ふ。ら。み。や。来。る。竹。橋。も。門。也。と
 岸。も。あ。の。寄。居。虫。も。生。土。神。も。立。つ。つ。は。光。景。と。え。ら。り。も。
 周。章。も。め。ま。か。け。も。く。ま。ら。姉。上。取。竹。比。連。の。の。ふ。そ。と。竹。橋。も
 くら。は。は。姉。の。涙。も。は。ら。は。ら。さ。る。や。妹。其。方。が。花。茎。も。は。ら。ら。り。

一條の物。うらいた。古。子。の。う。り。せ。り。や。妻。其。方。の。か。り。と。な。う。花。茎。と
 や。人。も。く。不。何。卒。し。と。父。の。仇。人。と。な。ね。り。一。太。り。と。恨。く。く。と。
 う。の。そ。の。是。の。う。り。と。疾。竹。橋。急。し。と。別。人。と。な。袖。も。と。り。
 不。平。の。理。も。似。つ。と。た。奈。古。子。の。と。密。も。か。し。ひ。花。茎。も。人。も。似。と
 々。と。ひ。定。め。し。う。と。妻。を。露。悲。し。と。思。ひ。け。く。と。姉。も。も。其。上。も。
 肥。ぐ。ら。の。よ。め。昨。日。今。白。や。と。全。快。と。い。や。め。の。う。き。と。う。ぬ。く。旅。の。の。う。き
 の。し。れ。と。水。が。さ。あ。く。愛。の。む。う。ふ。つ。ね。も。あ。ら。う。さ。や。妻。と。得。く。行。の。人。
 姉。上。も。も。も。と。は。じ。と。取。つ。と。歎。け。ん。志。見。ん。と。言。和。め。か。り。度。取。ら。か。し。
 っ。え。も。い。く。愛。の。色。も。妻。が。身。代。わ。り。妻。が。命。地。の。ひ。と。な。ら。と。女。と。い。や
 恨。い。づ。さ。と。更。し。や。他。の。の。も。う。た。く。と。淀。の。夜。船。の。暗。れ。れ。り
 ら。が。ら。肉。力。の。妹。も。肉。力。の。妹。も。父。の。末。期。の。の。其。方。も

は金ま返一うぶ言べそ夏をのりしと。いさうりや何方もどく世も
 夕しど。姉妹も呆果少時言をまも出さうし。姉も漸く公汝まづめ。やま
 妹今少こ。其方みかろく。は姉が花巻とやみ行とぬる。は二十両は方
 金とわらう。さしとを足取用と。遙くの道ながら。河内四高安切平
 が在野次から後力とあせく。父上の仇に討くら。さうらつて野も知し
 う。妻の被野の消息せん。後く内力が於女と。は金も得る夏をそ
 臨用ソウと。つふもせん。妻は野よと。又奈古子か立飲り。
 何等愛めよのれも知し。さしとを二人がもろ。妻は花巻よや
 くと。夏はこらく。言げと。辞めり。答も。涙わらう。團
 戸の男もいと哀ら。は姉の言ら。は金も内力の。心も。是
 り。河内とや。人其便置の地は。起さ。二十両の。五両の小判。賤本

よつと。寄居虫か首ふかり。夏と熟も。少のつ。竹惨れ。急をてんと
 催し。姉々涙と押かし。彼茶道の傳書より出。父の形見の巻の
 二巻一巻と妻が。かみ。一巻は其方へ。何方もあれ。巴
 寄居虫が。位居る姉が。先の懐剣ぬ。ちつと
 寄居虫も大地と。是喃姉。一
 歎き。叫ぶ。余野も。姉々。は。位。声。袂は
 押し。竹惨れ。急。寄居虫も。只。踏。公。其
 と。み。候。斯。果。公。唯。一。人。何。氏。父。向。と。定
 め。道。の。程。十。町。あり。あ。は。時。雨。入。降。出。る。名。日。日。暮。向。く。と
 り。不。と。道。の。旁。と。あり。樹。の。根。又。尻。う。り。の。け。少。時。中。と。ひ。居。る

ちりしも。奈古平の寄居虫のめと成るはひく走来。物成の言を秤首成の
 つも。既に引く行くとも。寄居虫の悲しく。めちき小腕又突退。あち非
 道より妻火何化し連行やと。度憤る言を。奈古平何くと笑ひ。力り
 二人は多年養ひと成る。於女に責る金成得人と名へ。斯る上々包
 ひも無益我は討火一伍一什。つりやさん先初めや。そ面成から。己
 家へ盗賊より。彼地へ住むと。夏めれ。ふ同子者成修行者。打扮せ。成
 身はは地。又羽黒山。神天の告と。名にせ。皆が同者。て
 長く當地に足はつ。山男が成長成。多る金。ふの。やうん。計東
 り。と。サ。ひ。不寄居虫。怒り。よ。人。の。畢竟彼成の。ひ。殺。は。場。成
 逃し。去。人。ま。と。思案成。定め。住居。顔持。密。懐。劍。抜。かく。し。
 奈古平が。贈。成。が。突。ら。あ。ふ。奈古平。浪。根。と。ひ。女子。と。あ。つ。不。覚。成



寄居虫奈古平成賺。うらふらふと
 切子やう。四。う。成。

寄居虫よ
 めらあふ知

とらじく又打つ懐剣で落る笠ふく丁度うけとら。手負さうも元来陰気の曲
者やとぞ。遂に寄居虫が懐剣をかきとら。わらへ危くえつ折寄居虫より先
は樹深き森の茂しに憩ひ時雨のややく待たる旅人かくしんらう走らんく。必
ひひかけぬ後う。奈古平めかけ切つとら。何うかしくしなれべ。西段とぞ
く先づ心持しうし光景く彼旅人寄居虫はさうさうさう。笠とら。成り
是則切平の空居虫々のまうの喜の喜びさふ。切平小よりさう。中く一言
むらむらく。只先づりりり候。切平不審。只一人さう。他國はさう。ひか
ふとのひ。奈古平の為体小子ふつ不慮えあう。位めさう。其由縁も知
じが。先一條のりのめさう。せせめへ。信さう。回ひらさう。寄居虫漸異奇か。
首尾とおさ。切平唯呆しふのさ。涙え出さう。やうさ。已に膝と丁度
て。夫よりさ。合さう。母の病氣は是非も。本國へさ。帰ら。母

いと健めく却く。日し。安不。成。同。入。去。頃。入。言。傳。の。消。息。サ。語。り。か。え
不審。さ。さ。さ。彼。地。は。教。月。度。休。め。母。は。又。り。や。の。と。身。成。ま。ひ。蛇。田。村。に。來。え。と
ら。彼。所。に。ま。さ。と。夫。より。漫。さ。ら。今。不。斗。の。危。急。と。救。ひ
や。せ。め。我。忠。義。と。神。仏。の。守。り。あ。ひ。さ。ん。さ。よ。我。母。の。病。氣。と。ら。つ。し。書。簡
も。皆。奈。古。平。の。波。討。ふ。我。と。本。國。へ。歸。し。後。母。と。と。於。女。に。賣。入。と。く。し
ら。め。今。一。月。と。や。く。逢。ひ。と。さ。ら。姉。上。の。於。女。に。さ。ま。じ。と。候。と。と
さ。ら。め。今。一。月。と。や。く。逢。ひ。と。さ。ら。姉。上。の。於。女。に。さ。ま。じ。と。候。と。と
と。力。成。さ。へ。つ。い。と。さ。ら。都。の。花。巻。は。尋。ね。ら。れ。逢。せ。さ。ら。ん
上。旬。ふ。浅。間。巴。之。丞。良。治。と。奥。州。に。歸。回。す。其。後。と。と。過。也。さ。ら。が。嗚。呼
衆。と。つ。れ。と。憂。ひ。更。に。来。れ。の。語。悲。し。其。無。常。の。惡。鬼。を。鍊。城。と。さ。ら。と。も
防。ぐ。と。計。束。と。七。月。頃。より。巴。之。丞。の。北。堂。遠。山。尼。風。の。さ。ら。と。打。以。と。も

醫師百討はむとあそとつゝ。其験さうみなく。未定まじくわもが花のさそ
成えやうね風吹ちし遂に亡入のふかひりひり。巴之忠の悲し家臣のざうれ
とくよ記えんる。瑣々いひ用ひれらむじつ。斯くのめべき変やうねむ
西亡骸返る牧山の長福寺。まさあそくまら。七日この山業々。正御の僧成
つゝ誦経ねむあふむらひる。おれ敷きのうちみ。月日更まら。すれ変やう夢
の間よ忘る果冬めいしうまひまき。次の年の春よめやう。彼去年巴之忠
が相撲四のどだ川。うすく来し賤の小女時鳥。お館よとまり。常巴之
忠。側よめり。信じく仕。わら。顔色うじく。心よ手やじく。や情心つゝ
年よめやうね。つゝたはか。さる。巴之忠。あつと。ひ。独寐の困寂
す。不雨。本峰の夜密。時鳥。枕ちう。招ける。また世よ。とね。小女。さ
む。婿く。と。た。つ。つ。じ。く。く。強。つ。つ。む。と。ふ。め。あ。れ。ね。ど。鼻。ま。ら。と。と。お。め。一。切。の。ひ

出する。巴之忠。々々。得。粧。所。さ。じ。く。今。い。ひ。ん。深。国。は。花。の。奴。と。け。を。を。つ
衰。王。の。夢。成。む。と。ひ。つ。る。と。め。の。や。と。唯。ち。と。め。の。ち。は。と。と。あ。ひ。し。め。さ。る。へ。れ
え。や。ま。の。う。え。あ。う。り。日。より。日。よ。く。愛。い。や。ま。し。花。成。と。ら。れ。お。胡。蝶。他。は。め。お。お
鴛。鴦。の。須。叟。も。ま。お。時。を。く。手。は。ら。が。入。袂。は。つ。ね。つ。つ。と。く。水。奥。の。中
と。い。り。み。り。は。頃。清。守。を。皇。也。

人皇二百代後圓融院。みく。日。た。く。せ。も。不。時。の。大。臣。と。師。良。公。は。瞿。麦。と。や。女。子。一
人。い。ま。ぞ。あ。つ。り。る。深。密。は。成。長。詩。歌。を。り。よ。め。う。う。く。糸。竹。の。道。ふ。ま。ん。時。う。う。生。平
は。雲。上。成。ら。の。と。と。車。を。う。う。ざ。れ。お。あ。ふ。も。大。踏。成。あ。と。く。変。や。う。と。と。と。と。天。性
色。あ。の。と。ひ。り。と。と。ど。何。う。お。漫。行。の。ひ。ま。よ。や。巴。之。忠。成。成。を。め。り。と。と。う。う。あ。お。志。心
間。い。く。去。年。辛。酉。の。神。前。お。う。う。う。う。う。回。會。流。石。ふ。名。ら。夫。と。言。か。あ。く
夏。草。と。や。一。排。羽。成。妻。い。と。と。と。古。哥。一。首。う。い。つ。け。と。と。り。し。ん。則。は。姫。子。と



暁友の方
 深夜
 時鳥
 殺し
 殺し



暁友の方
 深夜
 時鳥
 殺し

強のらつげ懸想^{かきう}よ巴^やの山^{のやま}より下^{くだ}りた^たりてふ^ふ言^{こと}く。奥州^{おくしゅう}ふか^かつ^つる^る後^{のち}巴^{のや}の山^{のやま}の言^{こと}信^{しん}
 と待^{まち}も。遂^{すなは}ちや^やの山^{のやま}の末^{のすえ}より下^{くだ}りて^て以^もた^たる^る也^{なり}。内^{うち}の母^{のぼろ}の歎^{なげ}き大^{おほ}き^きに^にて^て内^{うち}の父^{のちち}師^{のし}良^{のら}公^{のこう}
 ふも^も以^も由^{よし}縁^{ゆかり}略^{りやく}す^すえ^えの^のげ。堂^{どう}上^{じやう}武^ぶ家^けと^とつ^つれ^れと^と一^{いつ}心^{しん}が^が瞿^{くわ}妻^{さい}以^も浅^{せん}回^{かい}の^の館^{くわん}
 さら^られ^れて^て。姫^{ひめ}が^が全^{ぜん}ち^ちの^のち^ち悔^{くわい}も^も心^{しん}の^のべ^べう^うと^と言^{こと}ひ^ひと^と止^とま^まら^らず^ず。子^こは^は女^にの^の
 切^きり^りれ^れる^る貴^き賤^{せん}の^のか^から^らず^ず。内^{うち}の父^{のちち}も^も以^もた^たる^る也^{なり}。と^と兼^{かね}引^ひの^の心^{しん}。さ^さら^らべ^べき^き氷^{こおり}人^{ひと}
 と^と。遠^{とほ}く^く奥^{おく}州^{しゅう}ま^まと^と斯^すと^とす^すへ^へと^と止^とま^まら^らず^ず。浅^{せん}回^{かい}の^の家^け臣^{しん}ら^らつ^つと^とひ^ひと^と高^{たか}美^み也^{なり}。當^{たう}
 時^{とき}う^うよ^よも^も侍^{しやく}女^{にょ}を^をえ^えめ^めく^くる^る也^{なり}。師^し良^ら公^{こう}の^の姫^{ひめ}房^{ぼう}武^ぶ家^けの^の身^みら^らく^く室^{むろ}と^とせ^せん^ん。回^{かい}目^め
 是^{こゝ}に^にま^まく^くべ^べう^うと^と急^{いそ}に^に答^{こた}へ^へる^るべ^べし^しと^と一^{いつ}定^{ぢやう}の^のま^まり^り不^ふ詮^{せん}と^とべ^べき^き。以^もた^たる^る兼^{かね}引^ひの^の心^{しん}也^{なり}。
 侍^{しやく}女^{にょ}時^{とき}鳥^{とり}と^と深^{ふか}田^たの^の契^{せき}心^{しん}実^{じつ}なり^{なり}と^と鬱^{ふさ}結^{けつ}と^とし^しく^く心^{しん}更^{さら}よ^よの^のま^まり^り待^{まち}を^を月^{つき}日^ひと^と
 往^{むか}ふ^ふ常^{じやう}より^{より}も^も急^{いそ}に^にむ^むか^かふ^ふ春^{はる}と^と夏^{なつ}と^とを^を更^{さら}さ^さる^る也^{なり}。瞿^{くわ}妻^{さい}の^の輿^{こし}の^のま^まり^りを^を
 期^き未^みま^まり^りと^と止^とま^まら^らず^ず。時^{とき}鳥^{とり}と^と別^{べつ}館^{くわん}と^とし^し。姻^{いん}連^{れん}の^の規^き式^{しき}と^と儼^{げん}や^や。江^え田^たの^の私^し詔^{みことば}

